

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700061		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂すま飛松 1Fユニット		
所在地	神戸市須磨区板宿町2丁目5-23		
自己評価作成日	平成24年4月1日	評価結果市町村受理日	2012年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

板宿商店街が近くにあり、娯楽や、買い物などの機会も増え、楽しんで頂ける環境です。日々の暮らしの中に外出の機会を多く取り入れ、喫茶店、外食、散歩、買い物なども普通にできます。また、趣味嗜好に関しても、理解し、習慣を無くさない様、心がけています。ご入居者様の笑顔につながるような取組としては、庭の手入れや、環境整備のために職員とご利用者様と一緒に庭掃除をしたり、できる事を奪わない様に心がけています。楽しみを作るという視点から、友達を作られ、オセロゲームやトランプなどもご入居者様同士でされる事もあります。生活の主体者をご入居者様であるという思いを職員が持ち、関わりを考えて対応させて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2012年4月27日

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は神戸市街の密集した住宅地にある普通の民家で、すぐ近くにはアーケード商店街があり、馴染みのお店が立ち並び下町の風情が残っている。開設にあたり、職員は介護者である前に、まず共に心地よく暮らすことを大事にし、そのためには職員自身があきらめない姿勢を持ち続ける目標を掲げることで、自分が暮らしたい、自分の親が住みたいホームの実現を目指している。毎日その日のメニューに併せ、食材の買い出しに利用者も出かけたり、喫茶や時には外食にも出かけるなど、これまでの生活の継続を通して利用者自身の主体性を、職員は見守りながら支えていこうとしている。事業所は今後、地元住民への認知症の理解、周知とともに、地域の福祉相談窓口としての活用も見据えているが、そこに地域の居場所としての役割を担うことで、より拠点としての広がりが増すのではないだろうか。地域の課題も踏まえつつ、地域と共に発展されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念とは別にうま飛松での理念として「共に暮らすこと」を職員間で共有している。また、職員と管理者とが実践に繋げる様努力している。	開設にあたり、事業所独自の理念を全職員で掲げ、目標としている。職員は介護するだけの立場ではなく、共に居心地良く過ごせることを重視し、さらに職員自身が「あきらめない」という姿勢で、利用者のこれまでの生活維持に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方へのあいさつや、周辺の店舗などの利用にあたり、GHでの利用として関わってくれたり、サービスしてくれたりしている。自治会から、敬老の日にお花を頂いたりしている。	開設以来地元自治会の方針を尊重しつつ関係を築いてきたことにより、事業所周知への協力も得られている。1周年イベントは、地域住民の来訪と利用者、家族の交流ともなり盛況であった。地域包括を通じて地域の認知症の相談を受けることもあり、今後はかけこみ寺のような気軽な相談場所として活かしていきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会への参加や、運営推進会を通じて住民の方へアプローチはしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議を通じてサービスの内容を報告、話し合いの場として活かした取り組みを行っている。	地域代表者複数、他グループホーム管理者、地域包括職員、多数の家族が出席し定期的に開催している。認知症理解のための勉強会や運動不足にならないための生活習慣や食事など、健康管理に関する興味ある話題を取り上げ意見交換している。消防署立ち合いの避難訓練実施の報告、今後の協力依頼も行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サポート須磨主催のケア会議に参加し、GHを紹介して頂いたり、包括の方が来られ、様子を見に来て頂いたりしている。	グループホーム連絡会を通じて、市からの法改正等の情報提供、それに関連する事項や必要に応じた事例検討など、職員対象の勉強会の実施もあり、協力関係を築いている。地域包括とも日常的に情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の方針により、玄関の施錠は解除に向けてのアプローチはしているが、身体拘束はしない事を掲げて職員への研修も行っている。また、新入職員への新人研修の内容にも入っている。	身体拘束の内容については、職員に周知させるとともに、拘束を行わないための見守りなどのケア方法について学んでいる。現在玄関を施錠しているが、改善のための見守り体制の工夫と強化について、職員間で検討を進めている。	施錠に頼らない検討を期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	包括との連携もあり、高齢者虐待ポスターを張り、徹底に取り組んでいる。また、新人研修の際にも取り入れている。	職員は研修にて学び、周知している。利用者に対する無理強いや言葉かけは職員間で注意し合い、協力し合えるチーム体制を図っている。残業などを含む勤務体制にも配慮し、ストレス軽減にも努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内研修にて取り組んでいる。飛松はまだその機会を設けられていない	法人研修にて学ぶ機会はあるが、まだ該当者は無い。必要資料は整備しており、冊子は配布している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明不足にならない様、事前に理解、納得を図るようアプローチしている。重要事項説明時に質問やご意見を聞くようにも心がけている。	利用者本人とは、食事など一緒に過ごす環境を工夫し、利用前に体験を通して出来るだけ納得してもらえるようにしている。係る費用、特に加算の内容については計算式を使って説明し、看取りに関する方針についても重視している。重要事項説明は2度行い、2度目の説明時には担当職員が同席もしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画作成の際にご意見、ご要望をお聞きし、反映させて頂いている。運営推進会議でも、頂いた貴重なご意見を基に、職員に投げかけ、反映している。	運営推進会議では、多数出席があり、活発な意見交換となっている。会議内容は毎回全員に報告し、家族の行事参加やお手伝いの機会など協力依頼にも努めている。今後は家族とのコミュニケーションを深めるためにも、家族会の検討も考えている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を面談などで聞いたり、日々の勤務上でも話しやすい環境を作る様にしている。また、意見を反映させ、実施に向けた内容もある。	会議等での積極的な意見や提案を受け、前向きな取り組みとして反映させ、実行している。管理者は個別面談も設け、相談も受けながら個々の配慮にも努めている。職員は各々に目標を持ち、自主性が重視されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が「楽しく働ける環境」である事を基本とし、やりがいを見つけられるよう、意欲向上に繋がるよう努めている。残業はあるが、サービス残業ではない様な可憐きかけをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を適宜受けてもらい、また、外部件数参加の取り組みも行っている。ようやく1年がたつ中、事業所内研修をもっと増やしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内GH同士の交流の場は設けているが、社外の事業所同士の交流はまだ取り組めていない。社内のサービスの質の向上の機会はある。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、顔なじみになるような努力はしている。また、本人が困っている事、要望を聞きだすような配慮はしている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の生活にはご家族の協力が欠かせない事を伝え極力 ご参加いただけるような関わりを持つ努力をしている。相談しやすい状況を作り、こちらからの働きかけも行き事前の面談外にも問い合わせしてもらえるように努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、今、何が必要であるかを見極めたサービスを行うよう考え、他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員という概念を外し、「一緒に暮らす」ことを念頭に関係を築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればご報告、ご相談を基本とし、本人を取り巻く関係にあるご家族とは良い関係を築き、些細な事でも一緒になって支援していける様、写真を送って生活の様子を伝えるなど取り組んでいる。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた場所の行きつけの手芸屋さんに出向き、手芸用品を購入したり、馴染の場所ではないが、こだわりの町の銭湯に側隠と出向いたりしている。	趣味の会やこれまで利用していた馴染みの所には、継続して支援し、写真を使って様子を伝え合うこともある。利用者個別の思いの汲み取りにはまだ不十分などところがあり、利用者同士の関係性や家族との協力関係をさらに深めながら、支援につなげたいと考えている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係はまだ、1年であるが、仲良しの方もでき、職員と一緒に関わらなくても楽しく暮らす関係にはなっている。また、独りを好む方へも職員が配慮し、声掛けを行っている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のお孫さんから、ご本人の写真をお願いしたいなどと尋ねに来られたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の主体者は本人である事を常に考え、ご希望や、想いの把握に努めている。計画作成担当者も含め職員全員が把握するように努めている。また、お聞きする姿勢を持っている。	食の楽しみや、日常動作などを他の利用者と一緒にすることを通じてその人の楽しみや、したい事を知るということを重視している。利用者すなわち利用者同士の関係性、そこからの状況を見極めながら思いや意向を職員間で把握、共有している。入浴時は、貴重な機会となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	GHご入居前の生活環境を把握し、サービスに繋げ暮らしを楽しめるよう努めている。(アセスメント内に組み込まれている)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意思、思いを常に理解し、望む暮らしを提供出来る様話し合い、計画に反映している。	担当職員が中心に、利用者の状態を情報収集したミーティングシートの活用を図り、計画に反映させ作成している。原則3か月ごとにモニタリングを行い、状況判断を行っている。本人のしたいことを優先させた計画となるよう、家族の協力を得る努力をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを個別に作成することを職員間で決め、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしさを追求し既存のサービスにとらわれない多機能化に取り組む姿勢はあるが、そのような実践はまだない。東須磨デイに来られたボランティアさんを見に行ったことは有る。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ1年目であり、そこまでは至っていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を行い、服薬が出来なかったご利用者様への対応を行ったり、往診医と、横紋看護の連携が来ているため、情報の共有を図れている。	事業所の連携医が毎月2回利用者全員を往診している。入居前のかかりつけ医の受診は原則家族が同行、事業所は医療機関と利用者の様子や受診結果について、情報交換を行っている。又、健康管理のため訪問看護も月2回あり、必要に応じて点滴も行う等適切な医療を受けられる連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師さんに相談を持ちかけたり、夜間事故後の対応をして頂けたり、出来ている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、管理者、ケアマネ以外にもお見舞いに行ったり、病院関係者から、ご家族からの説明と一緒に受けたり、今後について相談したりしている。	管理者は週1回、ケアマネ、職員も見舞いに行き、利用者の不安を解消するよう、病院関係者や家族とも話し合っている。ADLの低下、認知力の低下を防ぎ、スムーズにグループホームの生活に戻れるよう早期退院に向け、入院中の病状把握と事業所でできることの提案等を積極的に行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に対し、ご説明させて頂いたとき、同意を得る事に往診医療機関との連携も行ってきた。そのご入居者様は、看取りを脱するほどの回復を行った経緯がある。	管理者をはじめ職員にも看取りの経験者があり、医師、看護師との連携もとれ、看取り介護に対応できる体制が整っている。契約時に安心して最期を迎えられるよう、看取りの指針を説明し、同意を得ている。今後は職員の理解と意欲に向けた研修の必要性を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修にて行う。社内研修では、まだ行っていない。これからの課題である。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	OPEN時にはスマ消防署の方に避難訓練の立ち合いをお願いし、2回目は自主訓練を行っている。次回は5月予定。(今後、年2回だけでなく、地域の避難訓練にも参加をする予定)	年2回消防署に届け出て、消防署の指導を受け、避難訓練を行っている。自治会を含む地域から協力の申し出があり、次回の訓練には地域住民の参加が予定されている。5月に行われる自治会主催の地域の避難訓練にも、利用者と一緒に参加する予定。	是非地域の協力を得て、今後の対策を検討していただきたい。夜間想定訓練も行っていたきたい。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様を「人生の大先輩」であることを常に考え、尊厳保って頂けるような関わり方をさせて頂いている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人らしく暮らせる支援を職員が緊張感を持って行えるよう指導している。職員にアンケートを取り、自らの関わりを振り返る機会としている。職員同士連携して声かけや羞恥心への配慮を目立たなく行うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご入居者様にどうしたいかをお聞きするようにしている。また、話しかけやすい環境を常に考え、対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントを知り、生活環境、社会参加などを通じて支援させて頂いています。(ご入居前、喫茶店によく行かれていた方には、行って頂いています)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分などがあるので、ご本人にお聞きしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所に立って参加をして頂ける方と、座っていてもできる味見などをお願いしている。夕食は配食を利用しているが職員がそろった段階で、自炊に戻す予定。	昼食は利用者と相談して献立を決め、近くの商店街へ利用者も行ける人は、一緒に買い物に行っている。下準備や盛り付け等できることを共にしている。食事時間、職員は食事介助と休憩時間にあて、食事は別々に摂っている。外食は、個別に希望の店に職員と出かけている。	職員も一緒に楽しめる食事時間を検討されてはいかがか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、水分量などもできる限りの記録を行い把握している。また、日常でも、時間を関係なく水分の提供はしている。その際にはご希望をお聞きしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後には皆さんに口腔ケアと、1週間に1度の歯科衛生士のチェックを実施している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前、食事後にはお聞きし、支援を行っている。また、自身の訴えにて介助を要する場合でも、適宜支援させて頂き、自立動作を促させて頂く。	排泄パターンを把握し、トイレで排泄するよう声かけや誘導をしている。残尿感がなくなり、気持ちよく過ごすことができている。夜間は、ポータブルトイレを利用したり、声かけでトイレ排泄を行う人もいる等、それぞれに合わせた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医療機関や、訪問看護との連携の上で取り組んでいます。また、ご家族様とご本人の希望により、朝食にさつまいもを食されるかたもいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は2日に1度の入浴を支援させて頂くが、ご本人様の要望にて行う。	2日おきに入浴している。時間帯は利用者の希望により、朝から晩の8時まで可能。一人ずつお湯を替え、希望に応じて同性で介助する等、個々に添った支援がなされている。入居前、銭湯に行っていた入浴拒否の方と、職員と一緒に銭湯通いをしたり、その他仲良い同士で時々銭湯に行く人もいる等幅広く入浴が楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状況に合わせて支援あわせて頂いている。起床時間も一律ではない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様の服薬に関して一人一人の用法、声掛けのタイミング、など理解している。また、医療機関や、薬局とも随時話し合い、懸濁法などを用い、個々に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に暮らしの日常があり、萬毒度を高められるよう支援させて頂いている。役割や楽しみを持てるよう配慮している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は多く持っている。行きたい場所、お話から拾い希望を確認している。王子動物園のパンダが見たいことから、企画、実施している。	その日の希望に沿って、喫茶店や買い物、散歩に出かけている。利用者の趣味のクラシックコンサートや王子動物園、須磨浦水族館、新開地劇場、淡路島まで日帰り旅行に行くなど、積極的な外出支援がなされている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人にとって金銭をもっている事が安心に繋がる方は持って頂いています。外出時に下着や、必要なものを購入したりしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話をいつでも使って頂いています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感を持って頂けるような置物、飾りはしているが、まだまだ、至っていない事が多い為、ソファの配置など検討中。	1階は共有スペースにソファを置き、2階は畳スペースを作る等 利用者に合わせ、居心地良く過ごせる配慮をしている。狭いながら動線をどう作るか、空間を活かす工夫がなされている。ソファに座って、録画のクラシックコンサートを楽しむ方々、近くのテーブルで静かに過ごす他の利用者、穏やかなひと時が流れていた。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地や、他ご入居者との関わりを考え、狭い空間を利用しながら工夫をしているが、検討中		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各、居室には馴染の物が少なく、まだ、1年目にして工夫が仕切れていない。お一人お一人の心地よさを考えた配置を心がけている。	居室には使い勝手のいいクローゼットが用意されているが、ベッドやその他の家具は馴染みのものを持ってきてもらっている。ベッドの他、テレビやラジオ、家族の写真を持参したり、床にマットを敷いて寝る人もある。職員が写真を飾ったり、事業所で必要なものを準備することもある。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を活かした関わり方を提供している。ご自分でできる事を奪わないことを基本としている。		